

情勢報告

時期にあった生育指標を作ってみよう ～中芸集出荷場研究会ナス部会～



例えば生長点の伸び率はどうか？

10月21日、中芸集出荷場研究会ナス部会の現地検討会に生産者13名が参加した。同部会では前園芸年度から、樹が栄養成長か生殖成長の判断また、樹勢の強弱を診断する技術について勉強を続けている。今回は9月から篤農家の圃場で行っている調査結果をもとに現地で勉強会を行った。生産者は「この樹の茎径を測ってみよう」等積極的に発言し、活気ある会となった。

今後、振興センターではさらに調査を続け、生育診断の指標を作成し、実用化する。

土佐あきをまるごと売りだそう

～JA土佐あき消費拡大連絡協議会中芸支部・芸西支部が誕生～



中芸支部では地元産品を使った創作料理も紹介された。

10月23日に中芸支部(参加人数14名)、11月18日に芸西支部設立総会(参加人数15名)がJA、生産者、市町村関係課、園芸連等出席し、開催された。

10月4日に設立したJA土佐あき消費拡大連絡協議会・安芸支部に続いた。地域独自の宣伝や身軽に動く目的から振興センターを中心に部会、JA、各町村と協議を重ね、新たに2つの支部が誕生した。

今後、お国自慢や県外での消費宣伝活動、もぎ取り体験、料理講習会など各支部独自の幅広い活動を行う。

ナス栽培に関するJAとの合同勉強会の開催！



生育調査の説明状況

10月25日、JA本所と現地実証圃において、JA職員(営農指導員と支所経済担当者)と振興センター普及指導員が20名参加し、ナス栽培に関する指導力や知識向上に向けた『栽培勉強会』を開催した。

振興センターから「植物とハウス内環境」「生育診断」「これからの栽培管理」「土佐鷹」推進の必要性を説明した後、試食を行い、「土佐鷹」のおいしさについて実感してもらった。JAからは「またやって欲しい」といった感想が聞かれ、2月に第2回合同勉強会を実施する。

天敵温存植物「スカエボラ」って何？ 講演会を開催



講師の説明に聞き入る生産者

10月28日、JA土佐あき北支所に安芸市内のナス生産者34人が参加して近畿中国四国農業研究センター研究員による促成ナス栽培における新たな天敵温存植物「スカエボラ」活用法等の講演会を開催した。生産者からは「是非、試したいので親株が欲しい」等の意見が出された。本会の開催に当たって、振興センターではJAと連携し、勉強会への参加機会の少ない個人市場出荷者も気軽に参加できるよう工夫した。

振興センターでは、今後もこうした勉強会や交流の場づくりを行い、全地域への新技術の普及を図る。

北川村青果（黄玉）ユズのEU向け輸出が本格化！ ～JA土佐あきユズ部北川支部～



1箱1箱、品質、重量を確認しながら梱包作業を行っている

北川村青果ユズのEU向け輸出が、9月の青玉に続き黄玉出荷が10月31日から始まった。今年の黄玉輸出計画量は5t（24年度は3t）、12月2日まで6回に分けて輸出する。梱包作業は、傷や日焼け等を1玉、1玉、確認して、長期輸送のリスクに対応した。

振興センターは、栽培指導、収量予測等の他、選果選別の徹底、異物混入対策等を指導した。

今後は、流通業者等と連携して、着荷状態の評価、現地での消費動向等の情報収集を行い、来年度に向けた課題への対応、計画数量の検討等を支援する。

芸西トルコギキョウ部会～今園芸年度初収穫時に現地検討会～



なかなかボリュームがあるねえ

11月2日、JA土佐あき花卉部芸西支部トルコギキョウ部会の現地検討会に個人出荷者も含め8名が参加した。

現地では、市場から要請のあった品種の特性についてJAや部会とともに品種ごとの本数や定植、収穫時期を一覧表にまとめて説明した。また保温資材を利用した施設の省エネについても指導した。

振興センターでは、販売面で有効活用できる品種一覧表を拡充し、現地実証圃等を活用した現地検討会で部会活動を支援する。

今年もしっかり勉強して多収・高品質を ～中芸地区営農相談日～



今頃の防除は何がえいろう

中芸地区の安田町唐浜および中芸集出荷場では10月から月1回の営農相談日を設け、振興センターとJA営農センターから時期に適した栽培資料や部会の告知等の情報提供を行っている。11月5日および8日の営農相談日には栽培技術資料配布の他、土壌溶液採取器を用いた施肥診断の呼びかけや、農薬安全使用の告知を行った。この活動は農家に定着し、役立つ情報が得られるという声を聞くようになった。

次回以降の相談日には簡易EC計等を設置し、農家が自己の土壌溶液分析を実施し、診断できるようにする。

農家レストラン開催に向けた視察研修開催 ～田野町 大野倶楽部女性部～



山南営農組合農村レストラン部員と意見交換をする大野倶楽部女性部

大野倶楽部女性部は、11月9日に13名が参加し、香川県山南営農組合農村レストラン部が運営する「どんぐりころころ」の視察研修を行った。同部は地区の集会所で地元料理の調理体験と昼食を併せたイベント開催を計画している。そこで、そのイメージや問題点を抽出するために山南営農組合の視察研修を振興センターが企画した。参加者からは、「レストランをやるイメージができた」、「大野地区は道やロケーションが良いので、面白い企画ができそう」等の意見があった。

今後、振興センターではイベント開催に向けて、メニューの検討、衛生管理等の支援を行う。

野生鳥獣から集落を守ろう！



集落から多くの参加があった

11月10日、野生鳥獣に強い集落づくり事業のモデル集落である奈半利町平・花田集落営農組織を対象に柵の設置方法について研修を行い12名が参加した。

振興センターは、柵の設置と管理について座学を行った。業者による実習を行った後、住民らは協力して金網柵25mを2時間で張り終えた。

参加者からは、急傾斜地での対応、角度の広い曲がりの処理方法、支柱の補強などについて質問があった。

今後、振興センターではビデオカメラ撮りしていた作業の記録をモデル集落や他地区の勉強会等で鳥獣被害対策の意識啓発に活用する。

果樹部会のカンキツ新品種研修～果樹試験場にて～



ポンカンの補完品目として関心が高かった

11月14日、JA土佐あき果樹部会は果樹試験場で視察研修を行い17名が参加した。果樹部会では、ポンカンの補完品目として、カンキツ新品種の導入を推進しており、振興センターは研修内容の提案・調整等、コーディネート役として活動した。

研究員より、新品種の特徴等の説明を受けた後、試験圃場を視察した。部会で試作している‘はれひめ’の圃場では、試食で味を確かめながら積極的に質問や意見が出されるなど、活気ある研修会となった。

今後、振興センターでは試食会や展示圃を活用して新品種導入を支援する。

第1回あきあいあい収穫祭・農林産物品評会 ～やっぱり土佐鷹！～



高知ナスの審査の様子

JA土佐あきは、11月16～17日の2日間「第1回あきあいあい収穫祭」を開催した。当イベントは昨年まで安芸市産業祭と同時開催していたが今年から単独開催となった。振興センターは、農林産物品評会の審査等を行った。品評会には高知ナス39点、ユズ14点、オリエンタル系ユリ12点など、特産の高品質な農産物が106点出展され、高知県知事賞は、ボリューム感、ツヤなどで圧倒した「土佐鷹」ナス生産者が受賞した。

振興センターでは、今後とも消費者ニーズに対応した高品質な農産物の生産振興を支援する。

園芸女性部、環境制御等の新技術研修へ



将来ハウスはどのように・・・。

JA 土佐あき園芸女性部唐ノ浜支部では、11 月 19 日に農業技術センターで 14 名が参加した環境制御等の新技術研修を行った。

振興センターが同支部から話題の「新技術としての環境制御」を勉強したいとの意向を受けて企画、調整し、研修が実現した。

炭酸ガス施用や高軒高ハウスによるパブリカの栽培、収穫方法など「花の色が濃い。実をつけすぎても大丈夫？」、「小さいハウスでは難しいだろうか」など、興味津々で意見交換や質問をしていた。

振興センターでは、新たな視察研修等情報提供を行い、女性の栽培技術や経営意識の向上を支援する。

田野町東大野集落営農組織役員会が開催される



役員会の様子

11 月 20 日、東大野集落営農組織の役員会が開かれ、平成 25 年度上半期の受託実績や水稻勉強会の予定について検討した。

役員会では組織の今後について、地域おこし協力隊から支援を受けることや、水稻の協業栽培ができる組織を目指すことなどを確認した。

また、今作の水稻栽培の結果から、水稻勉強会を品質向上のための基本技術の見直し、新品種の検討などの内容で行うよう助言し承諾された。

今後とも振興センターでは、組織運営に対する支援や水稻勉強会の講習会を開催する技術支援を行う。

防虫ネットに新色登場！？羽根園芸研究会なす部会



赤色防虫ネットに興味深々

11 月 20 日に室戸市羽根地区でナスの現地検討会が開催され、農家 17 名が参加、5 戸のハウスを巡回して互いの管理状況を確認した。

振興センターからは厳寒期に向けて保温対策の徹底を呼び掛けたほか、オランダ型温湿度管理や赤色防虫ネットを紹介した。このうち赤色防虫ネットは農家の関心も高く、害虫への効果やナスへの生育、着色の影響について話が盛り上がった。

今後も振興センターでは、現地検討会を利用して情報提供や指導を行い、部会活動を支援する。